

UTOのホームページが出来ました。
<http://www.uto-knit.com> (ユーティーオー ハイフン ニット ドット コム)
 ご覧になっていただければ幸いです。

『素敵な色が豊富に揃った中から、お客様の好きな色で、最も着やすい寸法のセーター。世の中に一枚だけのセーターを短期間で提供できるメーカーになる』というのを絶対に実現させると挑戦してもう十三年がたつてしまいました。『不可能だよ』『出来つこないよ』とけんもほろろに断られ続けた十年間。お蔭様で三年前からやっとスタートできました。

『初めは本当に納品してくるのか』と心配された初年度でした。やっと軌道に乗ることが出来喜んだのもつかの間、今度は製造が間に合わない程の注文を載って嬉しい悲鳴。来年から自家生産を真剣に検討しています。

【カシミア・現物フェアのお勧め】

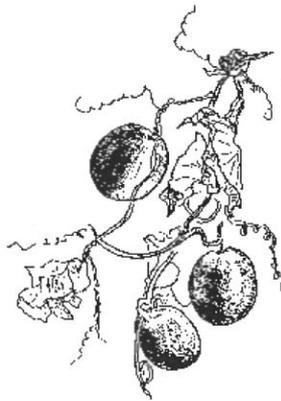
先物の受注会は絶対にやらないと決めておられるお店も多いですね。色んな理由や、いきさつがあるようですが『現物フェア』はいかがですか。現物のカシミアセーターをお貸しします。もちろん今までどおりご注文もお受けすることも可能です。

先物で注文して、出来上がりをわくわくして待つのも楽しみですが、現物フェアの強みはなんと言っても持ち帰りが出来ること。気に入って買いためたセーターはすぐに着たものです。

受注のカシミアフェアでは製造に時間がかかり過ぎるため注文を売られない商品や色々な色の糸をミックスした現物ならではの商品をご用意しました。

【この秋も頑張りましたよ！】
 よく言われますね。『売れない営業マン、売れない販売員程自分の商品の欠点をよく知っている。売れない理由を完璧に言えたら社員は許されても経営は結果がすべて。』

売れないと悲観したって売上が上がるはずも無し。愚痴って売上が上がるんだったらと愚痴っていますけど、周りまで落ち込まずに、どうせなら自分からやる気を広げましょう。



からすうり

ちび粉半袖

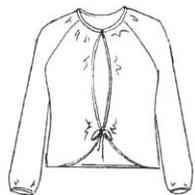
No. 1242 ¥35,000.-



一見さりげない半袖。ポイントは細かい作業で編み上げた衿普通にキュートに。襟を立ててスポーティに楽しんでみませんか。

楽しいボレロ

No. 2215 ¥47,000.-



裾のヒモを絞るとしわしわの前立て、ちょっとつぼまった袖口がなんとも可愛い

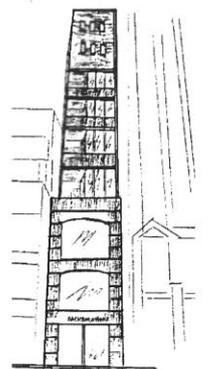
カラフルボーダー

No. 1245 ¥45,000.-



黒や真っ赤なボディにビビットなカラーのボーダーがかなり『かっこいい』袖口や裾りぶは絞まらないようにストレートに上げました

【南青山界限】 UTOはこんな街から発信しています
 世界的に珍しい日本の大都会名物
 ペンシルビル事情



わがUTOのオフィスがあるのは骨董通りの中ほどに面したバックボーンハウスというビルで七階で、住所は港区南青山六丁目二十バックボーンハウス七階。七階の何号室ではなく七階です。と言うことは七階のワンフロアがUTOのオフィスなんです。ワンフロアというスゴイ！と思われるかもしれませんが、でもそのワンフロアは約三十六平米、十二坪なんです。なんだ！と思われたでしょう。

このビルは地下一階地上九階建て。ざつと間口四・四メートル、奥行き九メートルと高さは部屋の中で二メートル三十センチはありますので大体二・五メートルと見積もるとなんと十二メートル以上になります。

正面から見た図を挿絵にしてみました。同じような高さのビルが並んでいるので全然違和感を感じませんが、このビルのシルエットは超高层ビルと同じです。ペンシルビルとはよく言った

ものですね。

ここへ移る前の渋沢ビルはワンフロアが十坪で九階建てでしたからもっと細いビルでした。

おかげで眺めは抜群です。表側には骨董通りの賑わい、恵比寿ガーデンプレイスのビル群。裏側には岡本太郎記念館を初め緑の住宅街と赤坂・虎ノ門界隈の本物の超高层ビル群がよく見えます。

比較的新しいビルでとても気に入っているんですが難点は駅からちょっと遠いこと。地下鉄表参道駅から歩いて七分ぐらいかかります。それと揺れることです。

地震はもちろんです。風が強いとかなり揺れます。地震はすぐに収まるんですが(今のところそんなに大きな地震はありません)、台風の時や冬の季節風の強い日は一日中揺れているということがあります。

こんな日は机に向かっていても揺れを感じて体が緊張するのが結構疲れます。フロアごとの契約ですからエレベーターも各階専用になっていて、1階にあるエレベーターの鍵を閉めるとその階には停まらなくなります。ボタンを押しても『ランプが点灯しない階には停まれません』とエレベーターが音声で二丁寧に教えてくれます。トイレももちろん専用ですから安心。フィッティングルーム代わりに使っています。裏の螺旋階段は空中に架かる梯子みたいでめちゃ怖いです。

これぞ日本の大都会ならではの特徴？名物？それにしてもこんな狭いところによく建てられるなあと感じてしまいます。隣との隙間は殆どありません。足場を組めるようなスペースもないような状況でも建てらるんだからすごい技術ですね。

狭い都心の事情ですから、こんなビルを十塔ぐらいをまとめて緑や駐車スペースのある効率のいいビルにしたほうがいいと思いますが、なかなかお目にかかりません。地上げという言葉が暗いかな。持たない貧乏人の素朴な疑問です。

* ニットの話 * (十三)

初対面の第一印象

今回はニットからちょっと離れますが、人は見た目で判断するというファッションの重要性の話です。

よく『人は外見じゃないよ、中身だよ』といいますが、私もそう思います。でも初対面の時はどうでしょう？ 相手を知っているはずがありませんから外見で想像するしかありませんね。

『男は黙ってサッポロビール』というのもありました。黙っていたら余計に外見しか判断できません。ま、CMですからね。

メラビンの法則というのがあるのですがご存じでしょうか？ アルバート・メラビンというアメリカの心理学者が1971年に発表したのですが、相手を判断する時、身だしなみやしぐさ、表情など見た目などの要素が55%、声の質やイントネーションなどが38%、なんと言葉や内容などは7%しかないそうです。結構ショクなデータですが一方ファッションがいかに大事かということを見れば『衣料品』、自分を表現するための服が『ファッション』なんです。悪しからず！

もう一つ、初対面で相手の身だしなみを判断する時間は2秒とも5秒とも言われています。ということはたった瞬間の印象がインプットされてしまうということです。『あつ、良いセンスの人！』とか『オーツ、ハデな人！』なんて。逆にその一瞬でインプットされたデータを払拭するには2年もかかるそうです。ちよつと大げさかもしれませんが、自分に置き換えてみるとまんざら出鱈目でもなさそうです。

最初に会った時、あの人はこんなファッションだったというイメージが出来上がってしまうとその後少々違っても今日は違ってたけどあの人はこうだった。となかなか最初のイメージが取れません。

ビジネスマンの制服とも言われるスーツにネクタイ。どんなメッセージが込められていますか？

『私はじめにお仕事をさせていただきます。他人とそんなに違ったことはしません、いわゆる常識人です。その

ファッションはメッセージ・人は見た目で判断する

代わりに、あんまり面白くはありません』と表明しているようなものだと思います。(笑)

先月、プロ野球の近鉄とオリックスの合併問題で近鉄を買収したいといったIT企業ライブドアの堀江社長が記者会見で『金も・ノウハウも持っているから球団を売って欲しい』という映像が流れていました。近鉄から剣もほろろに断られていました。

私は個人的には新参者を排斥するようなスタンスではプロ野球は絶対に良くならないと思うんですが、それはさておき彼はファッションの重要さやメラビンの法則を理解していないんじゃないかと思えます。

彼が記者会見でテレビの前に登場した時はTシャツというカジュアルなファッションでした。彼は仕事もカジュアルな服で、そんな気軽なファッションが気に入っているでしょう。しかし、『カジュアルは自分のための装い』、『きちんとした装いは相手のための装い』というのは世界の常識で、言葉に置き換えれば相手に対してきちんと敬語で話することだと思えます。最も顕著な例が喪服。あれこそ遺族の悲しみに弔意を服で表したものでしょう。

装いも経営者として重要な戦略の一つ。でもこの頃堀江社長はジャケットになりましたね。それならば最初のTシャツはなんだったんでしょう。ファッション屋としては服にも注目しています。

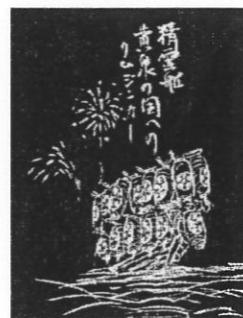
暗闇に遠ざかる精霊船の灯は子供心に寂しく悲しい灯でした。しかし今では精霊船を海に漬けるとすぐ回収して浜辺で焼却するんです。海に流すと不法投棄で法律違反になるそうなんです。流れ着いたゴミを片付ける人の気持ちになる『そうだね』と思えば、時流に合わなくなった伝統行事はただただ消えていくんでしょうね。

幼い頃のあの伝統的なお盆の行事も随分様変わりして、改めて時の流れを実感して帰りました。



忙中暇話・ニット屋のたわごと

肥前・島原地方のお盆



今年はお盆の初盆で故郷に帰りました。私の田舎は肥前の国、島原の北隣の有明という小さな町。物心ついた頃からお盆はどこでもこんなものと思っていたんです。他所から来た人はこのお盆の風習に驚き、その驚きで他の違いに気づきました。皆さんの所のお盆はいかがですか？

旧盆の8月13日になると先祖を迎えるためにお墓を掃除し、お花を手向けてお線香を上げるのは日本中大体同じ様なものでしょう。この後が違ってくるので、きれいにしたお墓の周りに竹や木を組んで、家の紋の入った提灯でぐるりと囲み明るくご先祖を迎えます。

お墓は一段二段と櫓のようにぐるりと提灯で囲まれ暗いイメージは全くありません。陽が落ちてお参りが済むとお墓の周りで花火をやるのが子供達の一番の楽しみ。広い墓地は花火の色とりどりの閃光と火薬の臭い、人々の喚声で大賑わい。たまに火矢花火の燃えカスが落ちてきて、『おお、あぶない』というくらいに誰も気に留めません。寂しいはずの墓場はお盆の三日間にはぎやかな田舎の社交場に变身し、しみみりと故人を思ふ優雅さは全くありません。

私が子供だった頃、といつても40年近くも前にもなりませんが、初盆の家では帰ってきた霊を黄泉の国に送り返すために精霊船を作っていました。子供にはいつも目立たない普通のオジちゃんですが、その日は俄然張り切って近所の若者を指導しながら3メートル近くもある精霊船を一日で作ります。薄い木枠の船に葉束で厚みをつけ棹先には青々とした杉の枝が飾られ、船縁には2、3層の櫓に家紋の入った提灯が満艦飾に下げられ野菜や果物が供えられます。

陽が落ちると精霊船は若者に担がれ通りを練り歩きます。若者達威勢のいい掛け声、花火や爆竹やドラのにぎやかな行列は死者との別れの悲しみを振り切るかのようににぎやかに明るく練り歩き、最後に暗い海に流すんです。

暗闇に遠ざかる精霊船の灯は子供心に寂しく悲しい灯でした。しかし今では精霊船を海に漬けるとすぐ回収して浜辺で焼却するんです。海に流すと不法投棄で法律違反になるそうなんです。流れ着いたゴミを片付ける人の気持ちになる『そうだね』と思えば、時流に合わなくなった伝統行事はただただ消えていくんでしょうね。幼い頃のあの伝統的なお盆の行事も随分様変わりして、改めて時の流れを実感して帰りました。

世界のホテルを旅する (十三)

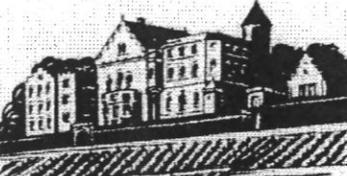
元、旅行屋のお勧め ヴェルツブルグ・ドイツ

シュロスホテル シュタインブルグ

『ドイツ・ロマンチック街道の旅』この頃ドイツの旅の案内書にはトップで紹介される人気の観光地ですね。三十年も前、『ヨーロッパ・古城と花と庭園』というイタリヤ、ドイツ、オーストリア、フランス、イギリスの花や庭園を巡り歴史的な古城に停まる三週間の旅を作ったのがロマンチック街道との関わりあひ初めでした。

今ではウンザリするほどの情報がありますが、当時は日本では殆ど知られていなくて、麻布のドイツ大使館へ多分ドイツ観光局はまだ無かったに通過して情報収集をしました。グループ旅行は殆ど始めてということで文化部の人が大変喜んで色んな情報を本国から取り寄せてくれました。

ロマンチック街道の出发点のヴェルツブルグという街はフランスから約一時間、ライン河畔の大学の街でシールポルトの生みだした街です。日本に西洋医学を教えた恩人で日本人初の女医のおいさんのお父さんです。彼はおランダ船で銀国の日本に来ましたが、医者としてオランダ東インド会社に入社したれっきとしたドイツ人。



今回の、シュロス・シュタインブルグはそのヴェルツブルグの街を見下ろす丘の上にあります。丘の斜面は一面のブドウ畑でドイツらしい質実剛健な要素を思わせる石組みのお城で、今にも中世の騎士が出てきそうな雰囲気です。と思いがたに玄関を入るといきなり中世の全身甲冑の等身大の人物が門番のように迎えてくれます。やっぱり思うことは同じと合点です。

古城ホテルへ泊まる醍醐味は、普段は見学するだけのお城を体験できることでしょうか。見ると泊まるは大違いです。この城の傑作は部屋でした。

シングルルームは2、3層の櫓に家紋の入った提灯が満艦飾に下げられ野菜や果物が供えられます。陽が落ちると精霊船は若者に担がれ通りを練り歩きます。若者達威勢のいい掛け声、花火や爆竹やドラのにぎやかな行列は死者との別れの悲しみを振り切るかのようににぎやかに明るく練り歩き、最後に暗い海に流すんです。

暮れなずむメイン河と旧市街が足下に広がり、対岸の目の高さには世界遺産のマリンボが望まれます。川面からブドウ畑の上を吹き上がった風が吹かれながら、王様気取りで飲むワインは格別。でも、こんな時、下戸の私はイマイチ格好がつかみません。こんな人のやらない旅ばかり企画していました。うと